

コメント

1. 感染性胃腸炎

定点当たり19.5人と本格的な流行が続いています。この時期はノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生が多くなるため注意が必要です。なお、広島市衛生研究所で今シーズン(9月以降)検出されたノロウイルスの遺伝子型別は、GII.2が3件、GII.3が1件、GII.4が2件です。

引き続き、手洗いの励行や便・吐物の適切な処理など感染予防対策を徹底しましょう。

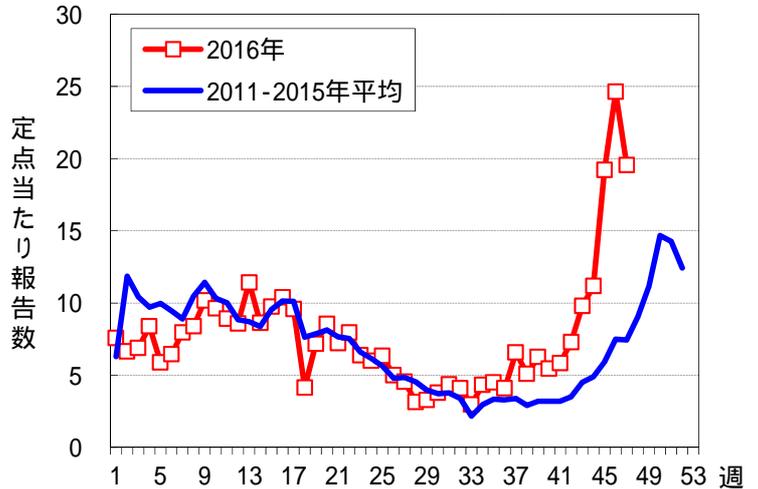
2. インフルエンザ

定点医療機関から27人(定点当たり0.73人)の報告がありました。前週と比べて減少しましたが、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等が1件報告されています。早めのワクチン接種、手洗い・うがいの励行、咳エチケットなど感染予防に努めましょう。

3. つつが虫病

第45週に1件、第46週に3件、第47週に2件と報告が続いており注意が必要です。(次頁参照)

感染性胃腸炎の流行状況



定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	27	0.73	0.24	↘	小児科	流行性耳下腺炎	5	0.21	0.63	
小児科	咽頭結膜熱	6	0.25	0.38		小児科	RSウイルス感染症	6	0.25	1.10	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	2.21	2.34	↗	眼科	急性出血性結膜炎	3	0.38	0.03	
	感染性胃腸炎	469	19.54	7.43	↘	眼科	流行性角結膜炎	1	0.13	1.01	
	水痘	12	0.50	1.05	↓	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	26	1.08	0.39	↘		無菌性髄膜炎	-	-	0.09	
	伝染性紅斑	8	0.33	0.18			マイコプラズマ肺炎	6	0.86	0.17	
	突発性発しん	10	0.42	0.53			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	1	0.04	0.07			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	3	0.13	0.10							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	133	男性(20歳代)・推定感染地域: 国外
4	つつが虫病	2	6	男性(60歳代)、男性(70歳代)
5	梅毒	1	21	男性(30歳代)

定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎	
			第43週	9	3	49	235	14	58	4	7	-	21	10	25	-	4	-	-	4	-	-	-
第44週	18	6	41	268	22	42	7	5	-	10	13	8	-	3	-	-	4	-	-	-	-	-	
第45週	30	7	48	461	13	21	3	3	-	2	7	8	-	4	-	-	3	-	-	-	-	-	
第46週	42	5	56	591	26	18	7	7	1	6	11	7	-	5	1	-	6	-	-	-	-	-	
第47週	27	6	53	469	12	26	8	10	1	3	5	6	3	1	-	-	6	-	-	-	-	-	
定点当たり	広島市	第43週	0.24	0.13	2.04	9.79	0.58	2.42	0.17	0.29	-	0.88	0.42	1.04	-	0.50	-	-	0.57	-	-	-	-
第44週	0.49	0.25	1.71	11.17	0.92	1.75	0.29	0.21	-	0.42	0.54	0.33	-	0.38	-	-	0.57	-	-	-	-	-	
第45週	0.81	0.29	2.00	19.21	0.54	0.88	0.13	0.13	-	0.08	0.29	0.33	-	0.50	-	-	0.43	-	-	-	-	-	
第46週	1.14	0.21	2.33	24.63	1.08	0.75	0.29	0.29	0.04	0.25	0.46	0.29	-	0.63	0.14	-	0.86	-	-	-	-	-	
第47週	0.73	0.25	2.21	19.54	0.50	1.08	0.33	0.42	0.04	0.13	0.21	0.25	0.38	0.13	-	-	0.86	-	-	-	-	-	
全国	第45週	0.84	0.28	1.99	9.37	0.47	0.73	0.10	0.43	0.02	0.17	1.07	1.19	-	0.72	0.03	0.05	1.33	0.02	0.02	0.02	0.02	
第46週	1.38	0.31	2.22	13.12	0.51	0.73	0.12	0.43	0.01	0.14	0.96	1.11	-	0.71	0.01	0.04	1.32	0.02	0.04	0.04	0.04		

新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

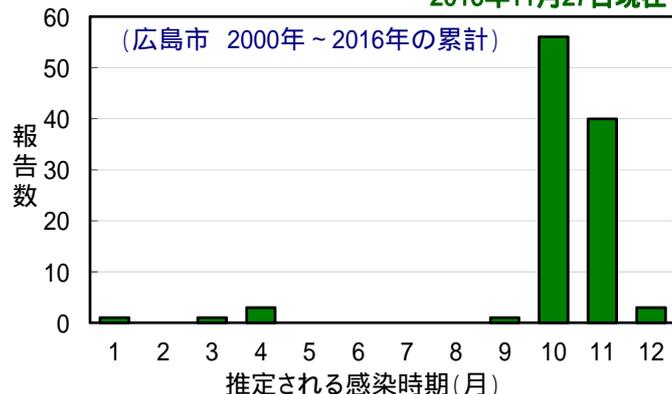
診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱(39.5) 嘔気 陰嚢痛	2	男	2016/10/18	鼻汁(拭い液)	B型インフルエンザウイルス
感染性胃腸炎	発熱(38.1) 嘔吐 下痢	4	男	2016/10/18	糞便	サポウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0) 気管支炎	5	男	2016/10/08	鼻汁(拭い液)	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0) 気管支炎	1	男	2016/10/08	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(38.4) 気管支炎	6	男	2016/10/14	咽頭拭い液	肺炎マイコプラズマ
その他の呼吸器疾患	発熱(38.6) 上気道炎 気管支炎	2	不詳	2016/10/16	咽頭拭い液	ライノウイルス RSウイルス
その他の消化器疾患	下痢	2	男	2016/10/09	咽頭拭い液 糞便	アデノウイルス3型
その他の疾患	発熱(39.0)	0	男	2016/10/22	咽頭拭い液 糞便	コクサッキーウイルスB2型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう

- つつが虫病 / 日本紅斑熱 / 重症熱性血小板減少症候群(SFTS) -

つつが虫の感染月別報告数(2000年以降累計) 2016年11月27日現在



つつが虫病は、つつが虫リケッチアを保有するツツガムシ(ダニの一種)に吸着されることにより感染する感染症で、5~14日程度の潜伏期間を経て発症します。症状の主な特徴は発熱・発しんで、ダニの刺し口が見られることもあります。

左のグラフは、2000年~2016年のつつが虫の届出136件のうち、感染時期の記載のあった105件について感染月別に集計したものです。ほとんどが10月から11月の間に感染しており、この時期は特に注意する必要があります。今年も第44週までは報告がありませんでしたが、第45週~第47週に続けて6件報告されています。このほかに、日本紅斑熱やSFTSも、ダニ類が媒介する感染症です。

これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、山や草むらに入るときは、長袖・長ズボンなどを着用して皮膚の露出を少なくしダニの付着を防ぐ、また屋外活動後はすぐに入浴し、ダニが付着していないかチェックするなどの対策をとることが重要です。

世界エイズデー「レッドリボンキャンペーン in 広島」(12/3 アリスガーデン)を開催します!

<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1193275461263/index.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2016年第47週(11月21日~11月27日)